

平成 25 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の結果報告
に対する中医協基本問題小委からの指摘事項の分析について・その 2 (案)

I 概要

- 平成 26 年 12 月 3 日中医協基本問題小委員会において、平成 25 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」の報告を再度行ったところ、委員より以下に示す点に関して、DPC 評価分科会において再度議論を行い、理由を明らかにすべきとの指摘を受けた。
 - 全ての病院種別について「治癒」が減少していることに着目し議論すべきではないか。
 - 「予期せぬ再入院」が経年的に増加傾向にあることに関して議論すべきではないか。
- 平成 27 年 1 月 26 日 DPC 評価分科会において、更なる議論を行い、委員より挙げられた意見をもとに分析を進めた。

Ⅱ 「治癒」「軽快」について

委員より挙げた意見

- ・ 「治癒」と「軽快」の定義が明確でないために、現場において正確な入力ができないのではないか。
 - 併存症を持った患者が退院後、外来を受診した場合は「治癒」とすべきか。
 - 現在の定義上、小児では「治癒」が多くあるが、成人で「治癒」をつけることは、ほぼできないのではないか。
- ・ コーディングテキスト等により定義の周知をはかるべき。
- ・ 民間保険での還付のための条件により、「治癒」をつけることが難しいのではないか。
- ・ 『継続的に』治癒率が減少している原因を把握するために、特別調査（アンケート調査）を行うべきではないか。
- ・ 平均在院日数が短縮した代表的な疾患（虫垂炎など）、外科、内科、小児などの観点での「治癒」「軽快」の割合を集計してはどうか。

対応方針（案）

- 各医療機関における「治癒」の判断のバラツキの原因に関して調査することとしてはどうか。

Ⅲ 「予期せぬ再入院」の増加傾向について

委員より挙げた意見

- ・ 「予期された」再入院なのか、「予期せぬ」再入院なのか、定義が明確でないために、現場において正確な入力ができないのではないか。
- ・ 疾患別の頻度を集計し、傾向がないか検討すべきではないか。

対応方針（案）

- 『予期せぬ再入院』が大きく変化している医療機関の原因を調査することとしてはどうか。